

## 食物アレルギーの子ども 災害時、避難所でどう対応 遊学舎 医師ら講演、試食も



子どもの食物アレルギーと災害時の対応をテーマにした講演会が26日、秋田市上北手の遊学舎で開かれた。参加者はアレルギー不使用の炊き出しの試食や、医師と防災士による講演に耳を傾け食物アレルギーについて理解を深めた。

主催した食物アレルギーのある子の保護者らでつくるグループ「もぐもぐ」（鷲谷彩香会長）は、アレルギーの原因となる食材を取り除いた炊き出しの試食会を実施した。

国学館高校（秋田市）調理科の1年生4人がボランティアとして参加。カレーライスと五目汁、きのこご飯を調理した。試食した参加者は「普段食べている料理と変わらずおいしい」「安心して口にできるし食べ応えもある」と感想を語っていた。

会場では、おでんやアレルギーミックス粉などアレルギー対応食品を展示。親子連れが興味深そうに手に取っていた。



中通総合病院（同市）小児科長の山田瑛子医師は、災害発生時にアレルギー疾患の症状があるときの対応について解説。避難所では食物アレルギーがあることを表記したビブスを着用して周知させることが有効だとし、「言葉で説明できなくてもアピールすることができるので活用してほしい」と語った。

岩手県防災士会理事の武藏野美和さん（陸前高田市在住）は、東日本大震災での被災体験を交えて講話し、防災意識向上を呼びかけた。



秋田市保戸野から参加した山崎由佳さん（46）は「食物アレルギーがあることを周囲に知らせる方法は勉強になった。マタニティマークのようなものがあればいいかもしれない」と話した。（小野祐一）

（令和7年1月31日（金）秋田魁新聞より一部抜粋）